



2024年11月19日 (火) 14:00~16:30

【場 所】 国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟小ホール

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、本当にありがとうございます。日本PCA教育振興会は、PTAに携わったOB・OGを中心にして、広く我が国の教育について考え、行動する団体として、平成12(2000)年に設立しました。令和7(2025)年創設25周年を迎えます。

「夢と希望を語ろう」大人の教育シンポジウムは、2002年に第1回を開き、今回が13回目となります。コロナ禍の影響で、なかなかこういう会が開催できず、東京で実施するは9年ぶりのことでもあります。

私がPTAに携わったのは平成4(1992)年頃でした。世田谷区、さらには東京都のP連の会長、日本PTAのほうにも携わらせていただきました。

いま日本の国に一番欠けているのは教育ではないかと私は思っています。教育がちゃんとできていない国はいつか滅びます。本日は「子どもたちと地域のかかわり」というテーマで、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。よろしくお願いたします。



日本PCA教育振興会 会長 島田 益吉

夢と希望

第6号

2025年
3月1日



日本PCA教育振興会

Japan Parents and
Citizens Association
for Education

発行人 島田 益吉

〒156-0056
東京都世田谷区八幡山
3-6-2

☎03-5317-4131

FAX03-3304-2188

PCAとは？

PCAの「C」はシティズン(市民)です。PTAは、子どもが学校を卒業すると、親たちも学校教育の現場から離れざるを得ませんでした。それを子育ての終わった人、子どもを持たない地域の人たち、教育に関心のある

すべての人に参加していただき、子どもたちの教育を考え、実践しよう。それが日本PCA教育振興会の考え方です。

大人たちが積極的に地域の子どもの教育に参画する。そのPCA活動は、街おこしのきっかけにもなるのではないかと期待されています。

学校支援者補償制度のお問い合わせは☎0120-580-278(フリーダイヤル)へ

日本PCA教育振興会は、「地域の大人全体で青少年の健全育成を」と呼びかけ、この補償制度を2003(平成15)年から実施しております。詳細は<http://j-pca.net/hosyou/00.html>へ。

と聞いて、わくわくしました。寺脇 子どもが減って、学校がどんどんなくなっています。古川 ウチが持っている自然の中にある27施設を使っていたらと思えます。

寺脇 石破茂首相は「地方創生」をうたっています。そのためにも青少年施設が必要ですよ。

古川 一施設あたり400人位は泊まります。今はそれをどんどん縮小せよみたいな方向性です。そうじゃないだろう、と思っ

ているんですけど。寺脇 明石先生は、PTAに限らず、社会教育、生涯学習について研究をなさり、中央教育審議会の委員をされています。

明石 昭和23年の子年、生まれは、滑って転んで大分県です。千葉大に37年間、65歳で辞めて千葉敬愛短期大学、保育士さんを養成する短大で9年間学長をやっていました。

学校5日制は、平成14(2002)年に実施され、日本PTA(日P)は、その年から「子どもとメディア」という全国調査を22年やってきました。その実績を認めたいと思います。

千葉大にいるとき、「PTA役員をやった効果」を500名のお父さん、お母さんに聞いた。「1年間役員をやって学校がよ



明石 要一氏 (千葉大名誉教授、元敬愛短大学長、日本PCA特別相談役)

か。一番いいのはPCAの方々に経験知を生かして地域を活性化することをお願いしたい。寺脇 学校5日制の導入が、PTAが変わったきっかけでした。2002年に完全学校5日制が始まった。その10年前の1992年に初めて学校5日制、月1回、第2土曜日だけ休みにした。そのとき「こんな大事なことをPTAに相談もしない。文部省はけしからん」と、初めてPTAが文部省に押しかけてきた。そのお叱りを受ける担当者が私だったのです。

くわかった。先生方の苦勞もわかった」というのがトップでした。2番目は「自分の子どもを客観的に見られる」。全体の中にある自分の子どもを見ることのできた。ですからPTA役員の効用はあると思っています。千葉県木更津市で25年ほど前、学校を支援するボランティアを育成しようということをやりました。小中学校36校。PTAの役員をやった方に、学校支援ボランティアのコーディネーターになってもらった。これが非常に評判がよかった。学校運営協議会。簡単にいったらコミュニティ・スクール(CS)ですが、こととして20年、全国で65%の学校でCSが実施

されています。平成27(2015)年、9年前に中教審で地域学校協働本部、地域と学校が助け合いながら本部をつくりましょうと決めました。ですから地域学校協働本部と学校運営協議会の2つの車輪がうまく機能すればいいんですが、問題はコーディネーターの育成です。先生方に負担を掛けてはいけません。学校と地域をつなぐコーディネーターをどう育成するか。



寺脇 研氏 (元文部科学省審議官 星槎大大学院教育学研究科特任教授)

動が行き詰まっているところに、新しい風を吹かせるキーワードとしてPCAが議論されるべきではないか、となってきたのです。保坂 学校5日制で思うのは、学校の先生も多忙化しています。子どもも忙し過ぎる。土曜日がホッとできるかというところ、塾、習い事、地域スポーツ、色々なプログラムがありすぎる。今、「放課後どこかで遊ぼう」という言葉は死語になってます。「小3からでは遅過ぎる」とか「小2から塾に行かなければ」で、子どもたちは塾中心の生活になっていきますね。

一方で、今1500人も学校に来られない子どもがいる。廃校になった北沢小学校の校舎を

使って「学びの多様化学校(不登校特例校)」を計画中です(補足・令和8(2026)年4月開校予定)。「なんだ。人生、面白いじゃないか」と子どもたちに気づいてもらいたいと思っています。明石 PTAが非常に難しいのは、区長がおっしゃる通りに、忙しくて放課後が消えた。何故かというところ、この20年間で社会に出ていくお母さんがものすごく増えた。家にいるお母さんといないお母さんが半々になりました。そういう時代の変化を日本PTAは考えていなかった。

きょうのテーマ「子どもたちと地域の関わり」で簡単に結論をいうと、1番目は、地域を知りましょう。2番目は、地域を好きになりましょう。3番目は、地域を良くしていきましょう。

寺脇 ありがとうございます。きょうはいろいろな議論ができてよかったです。最後にもう一度PCAはPとCペアレントとシチズン、それはすべての大人であるわけですから。「地域を守るために、ちよつと子どもに向き合ってください」とこれを縮めた言葉にしたいと思えます。

議事録が事務局にあります。必要な方はご請求ください。

大人の教育シンポジウム 「夢と希望を語ろう」の歩み

- 第1回(2002年)／東京・虎ノ門
21世紀の児童生徒を育てるための大人の役割
- 第2回(2003年)／札幌市
まことの対話を取り戻そう
- 第3回(2006年)／東京・内幸町
子どもたちのための安全な街づくり
- 第4回(2007年)／船橋市
IT時代の教育としつけを考える
- 第5回(2008年)／都城市
食育と子育てについて考える
- 第6回(2009年)／東大阪市
地域の力を生かした教育を考える
- 第7回(2010年)／那須高原
地域にやさしい暮らしを考える
- 第8回(2011年)／那覇市
子どもをどうほめるか、どう叱ればよいか
- 第9回(2015年)／東京・代々木
地域で子どもが学ぶためのPCAの役割
- 第10回(2015年)／東京・代々木
地域で子どもを育てよう
- 第11回(2017年)／奈良市
色彩は心を豊かにする
- 第12回(2019年)／奈良市
「夢をかなえる海」～森は海の恋人～
- 第13回(2024年)／東京・代々木
子どもたちと地域のかかわり

阿部俊子文部科学大臣の祝辞



動に取り組んでおられることに敬意を表します。

令和5年6月に閣議決定されました第4期教育振興基本計画では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」の二つを包括的な基本方針として掲げているところでございます。

日本PCA教育振興会第13回大人の教育シンポジウムの開催を心からお祝いを申し上げます。日本PCA教育振興会の皆様には、日頃から地域社会全体で子どもたちを守り育てるためのさまざまな活

この実現に向けた一つの方策として、文部科学省は保護者や地域の方々が学校運営に参画するコミュニティ・スクールと多様な地域住民などの参画を得て行う

地域学校協働活動を一体的に推進することなどによりまして、学校・家庭・地域の連携・協働を推進しているところでございます。

日本PCA教育振興会の皆様には、豊かなご経験を生かし、こうした取り組みに積極的に参画いただくなど、今後とも子どもたちが安心・安全に生活し、将来に希望を持って成長していけるよう引き続きお力添えを賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

本シンポジウムのご成功と日本PCA教育振興会の皆様のますますのご活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

日本PCA教育振興会役員名簿

顧問：島村 宣伸(元文部大臣)／馳 浩(元文部科学大臣、石川県知事)
 特別相談役：明石 要一(千葉大学名誉教授)
 相談役：片桐 良雄(長野)／橋本 量太郎(大分)／薄田 泰元(新潟)／岡部 観栄(大分)
 鈴木 仁(栃木)＝前会長
 会長：島田 益吉(東京)
 副会長：田久保 健美(千葉)／阿多 祥一(宮崎)
 常務理事：佐保 博文(大阪)／狐崎 麻雄(千葉)
 監事：木下 徹(東京)／小林 庄市(福井)／松下 文芳(北海道)／丸 洋栄(東京)
 理事：田中 康司(岐阜)／山田 誠香(大阪)／川端 政広(福岡)／島袋 光尋(沖縄)
 三角田 慎二(三重)／長谷部 衡平(千葉)／荒川 律(栃木)
 事務局長：東 洋子(東京)

〒156-0056 東京都世田谷区八幡山3-6-2 ☎ 03-5317-4131 FAX 03-3304-2188